

はじめに

平成13年12月、石川県書写書道教育連盟の第12回研究大会を根上町にて開催いたしましたところ、県内外各地から数多くの方々のご参加くださり、貴重なご意見とご支援を賜わり、誠に内容のある研究発表の会となりました。

とりわけ、講師の町川 哲先生には、遠路遙ばるご来県いただき、永年に亘る実践に即した貴重なご指導と示唆に富んだ指針を賜りました。また、本研究大会の開催にご支援をいただいた石川県教育委員会・根上町教育委員会をはじめ、関係の各位、そして、ご参加下さって、熱心にご討議いただいた先生方に厚くお礼申し上げる次第です。

4月より、義務教育では新教育課程の授業が開始され、文字を書くことは学習の第一歩であり、教育の基本的活動として、さらに重要視されていくことと思われまます。そして、この基礎学習から 総合化・情報・国際化・環境学習等の、今日的・多様化された教育活動が展開されてゆき、石川県においても本県特有の伝統文化・歴史・環境に即して実践的教育がなされますが、何れの場面でも、相手に自分の心を伝える手段としての、確かなコミュニケーション-書写力と発言力-が求められます。本連盟が掲げる「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」の意義もここにあり、そして学校教育における不登校・学級崩壊等の今日的課題も「豊かな心を育てる」との連盟の主目的によって達成されることでしょう。

本大会では、全国大会の研究の実態と本連盟の先生方の常日頃の研鑽の成果発表等を基に今後の書写書道のあり方について鋭意検討されました。本研究大会の成果が、本県の書写書道教育及び各会員の更なる進歩の一助となることを願って、本誌を発行いたしました。

会員各位のますますの御健勝と研究・教育に向けての更なるご発展を心から祈念いたしましてごあいさついたします。

石川県書写書道教育連盟

会長 藤 則雄

目 次

1. はじめに	1
2. 第12回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. 研究協議会Ⅰ報告	
全国大会参加報告「書写書道教育における今日的課題－全国の実践を受けて－」	
◇全日本書写書道教育研究会北海道大会報告	7
柿木千鶴（松任市立松南小学校）	
◇全日本高等学校書道教育研究会三重大会報告	12
中川悦幸（県立翠星高等学校）	
研究協議会Ⅰのまとめ	14
4. 研究協議会Ⅱ報告	
実践発表レポート	
「授業実践にむけての具体的手だてを探る－授業実践から－」	
－高等学校－	
◇「心をこめて創作するための一試み～漢字仮名交じり文～」	15
水上真由美（県立金沢商業高等学校）	
－小学校－	
◇「文字を書く意欲を引き出すための書写学習の広がり」	25
－総合的単元における生き生きとした場面の設定と授業の工夫－	
堀 順一郎（野々市町立菅原小学校）	
研究協議会Ⅱのまとめ	34
5. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	37
6. 平成13年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	41
7. 石川県書写書道教育連盟規約	43

第12回石川県書写書道教育研究大会

平成13年12月7日(金)

第12回

石川県書写書道教育研究大会

根上町総合文化会館

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

主催：石川県書写書道教育連盟

後援：石川県教育委員会

：根上町教育委員会

：石川県私立幼稚園協会

日程

10:00 ~
受付

10:30~11:20
研究協議会Ⅰ
11:30~12:00
研究協議会Ⅱ

昼食
(理事会)

13:15~13:45
研究協議会Ⅱ

13:55~14:10
全体会
14:10~15:30
講演

研究協議会Ⅰ（全国大会報告）（10：30～12：00）

「書写書道教育における今日的課題 ～全国の実践を受けて～」

① 全日本書写書道教育研究会北海道大会報告

レポーター：柿木千鶴〈松南小学校〉

② 全日本高等学校書道教育研究会報告

レポーター：中川悦幸〈翠星高等学校〉

③ 報告を受けてディスカッション

司会 八田 和幸(港中学校) 記録 大下 佳弘(辰口中学校)

研究協議会Ⅱ（実践報告）（11：30～12：00）

「授業実践に向けての具体的手立てを探る ー授業実践からー」

④ 高等学校実践発表

「心をこめて創作するための一試み～漢字仮名交じり文」

発表者 水上真由美(金沢商業高等学校)

助言者 塩 泰尚(石川県教育委員会指導主事)

司会 広畑登代子(鶴来高等学校)

記録 野村 典子(辰巳丘高等学校)

12：00～13：15 昼食休憩

参加者〈小ホール〉：理事会(2F・会議室)

研究協議会Ⅱ（実践報告）（13：15～13：45）

「授業実践にむけての具体的手立てを探る～授業実践から～」

⑤小学校実践発表

「文字を書くための意欲を引き出すための書写学習の広がり」

－総合的な単元における生き生きとした場面の設定と授業の工夫－

発表者 堀 順一郎(菅原小学校)

助言者 岡部 朋代(石川県教育センター指導主事)

司 会 大浦 努(不動寺小学校)

記 録 中辻 育代(粟生小学校)

全体会・講演

(13：55～15：30)

全体会 あいさつ・祝辞

講 演

「書写指導における具体的実践にむけて

～香川県の実践例をもとに～」

町川 哲氏(香川県土庄町土庄小学校教諭)

研究協議会 | 報告

大会参加レポート

研究協議会のまとめ

第42回全日本書写書道教育研究会

北海道大会 参加報告

松任市立松南小学校

教諭 柿木 千鶴

1. 会 期 平成13年10月11日(木)・12日(金)
2. 場 所 札幌市立桑園小学校・札幌市立陵陽中学校・ホテルライフオート札幌
3. 大会主題 生きる力をはぐくむ書写書道教育
 - ・ 小学校課題「子供の思いや願いを大切にし、生活に生かす力をはぐくむ書写学習」
 - ・ 中学校課題「生徒自らが学び方を身につけ、生活に生かす力をはぐくむ書写学習」
 - ・ 高等学校課題「豊かな表現力と、書を生活に生かしていく心情を育てる書道教育」
 - ・ 大 学 課 題「教員養成課程における書写書道の実践的指導力の育成」
4. 授業内容(桑園小学校 第3学年・第4学年)
 - (1) 授業参観より
 - ☆ 第3学年「点画名人選手権！」筆づかいのまとめ
 - 《单元設定の工夫》
 - ・ 本单元は、5月から学習してきた点画の復習とともにその点画を使って他の文字も書くことによって、学んだことを広げていく力をつけたいというねらいで計画されている。
 - ・ 本時は2/3で、前時では自分の挑戦したい点画と漢字を決め、練習している。そこでまずその練習作品を見て、今日の練習のめあてを持つことから本時が始まった。グループは次の6つであった。
 - *横画グループ *たて画グループ *払いグループ
 - *点グループ *おれグループ *はねグループ
 - ・ うまく書けないグループを取り上げ、みんなで話し合いの場を持っていた。そのとき、点画ビデオを見たり、水書板に書きながら拡大器を通して TV に映して見たりして、共通の課題にしていたのが良かった。
 - ・ 筆を持つての準備体操として、いろいろな線の練習をしながら姿勢や筆の持ち方を確かめているのが良かった。

《練習方法の多様化》

- ・ 課題を各自で持ったことだけでなく、その課題に迫る練習方法も多様に用意されている。教室の前や後ろなどに配置された学習コーナーが追及の一つの場面となる。本時の課題や具体目標、個の課題を達成するために、児童が自己選択や自己決定をしながら進めていくのである。主な学習コーナーと活用のねらいは次の通りである。

ビデオ

教師の範書の代わりになり、連続した動きの中で筆づかいや注意するところがよく分かる。課題にあわせて2台準備されていた。

水書版

半紙大の水書版と筆、水が2セット用意されていた。乾けば何度でも使えるので気軽に練習できる。部分練習をくり返す時などに効果的。

名人プリント

練習用紙である。点画の練習を段階を迫ってできるように、籠書き・骨がき・始筆のみなどバラエティにとんでいた。

筆ペンプリント

毛筆ではむずかしいこともペンを使ってなら解決できることがある。硬筆で課題に迫った後、再び毛筆に戻るのである。形やバランスを考える時に有効な方法である。

また、硬毛の関連を計る展開にも役立つと思われる。

《まとめと評価》

- ・ 本時のまとめ書きを終えたら、前時の作の横に貼り、相互評価をしていた。良くなったところにシールを張っていくという形の中で、個々の伸びが具体的に分かる。また、友達同士で声を掛け合う姿も見られた。
- ・ 仲間からのアドバイスを参考に今日の練習を振り返り、次時への意欲付けとしていた。

☆ 第4学年 詩の世界へ

《单元設定の工夫》

- ・ 本单元は、子供たちが毛筆と絵を積極的に組み合わせ作品化していく中で、自分の文字のよさや毛筆を使うことの楽しさを実感させていくことをねらっている。
- ・ 総合・国際交流の一環として、ロシアの姉妹校に送るカードを作るという計画で、丁寧にカード作りをしたいという動機づけも充分である。

《個の課題に迫るために》

- ・ 事前にカード作り①として、選んだ詩の情景を絵で表し、その絵に毛筆で詩を書き入れる練習をしているが、そのときの考察を元に個人のめあてを持ち、そのめあてに迫るための練習方法を本時では用いている。

- ・野線シートやます目シートなどから自分のめあてにあったものを選び絵シートの下に敷いて練習をしていた。絵シートの上に透明のシートを置き、筆ペンで書いては、何度も消して書き直していた。
- ・個の課題を全体に広げるために、また相互評価の為に“作品評価コーナー”を設けてあった。出来上がった作品を実物投影機で映し出せるように設置してあり、子供たちは順次作品を映して見ていた。

《まとめと評価》

- ・本時はまとめ書きの前の練習の時間であった。絵と透明シートを重ねながら、字の大きさ、バランス、字間などについて自己評価し、めあてカードに書き込んでいた。また、実物投影機でお互いの作品を見合って成果を認め合う姿も次への励みになるだろうと思われる。

(2) 分科会から

- ・ 討議の柱は次の3点であった。

- 1) 子供の思いや願いを大切にした学習であったか
- 2) 学習が「生活に役立つ」きっかけとなったか
- 3) 「引き出し」を「つくる」「つかう」について

ここでは特に、3)の「引き出し」について引用したい。

「引き出し」の意義付け

小学校部会でいう「引き出し」とは、子供たちが学習活動で得る知識、技能、関心、意欲、態度、思考を包含したものと定義する。書写の窓口から見た「引き出し」は、「書く」という技能・技術だけでなく、学ぶ力、学ぼうとする力、意欲、考え方も含む。

「引き出し」をつくる

上のことを言い換えれば、「引き出し」とは学習における基礎・基本の部分であり、子供たちが手にする「道具」であるといえる。子供の思いや願いを大切にしながら、いかにしてこの道具を作っていくか、実践を通して考えていくことが必要である。

「引き出し」を使う

学習や生活での書く活動場面で、自分の中の「引き出し」のどれをどのように引っ張り出して使うかということを考える学習である。このことは学習したことを積極的に生活に生かしていこうとする態度を育てるベースともなりうる。

「引き出し」を使うには、それ相応のしっかりとした「引き出し」＝基礎・基本が身につけていなくてはならない。よって、使う学習を考える時、どんな引き出しが作られていることが必要なのかを見通して、構築していかなければならない。

・指導助言から（山梨大学教授 宮澤正明先生）

書写と総合を絡める実践も見られるが、あまりそれをしすぎると、“総合で書写ができるなら国語科書写を減らしてもいいのでは”ということになりかねない。書写の時間の確保を考えないといけない。

書写授業の立ち遅れの原因の一つに、「発問」の吟味が無かったことがあげられる。お手本通りに書かせるのではなく、考えて書くことができるような「発問」を工夫することが大切である。

書写の時間だけでなく、日常の書く活動でも適切な声掛けを行いたい。また、文字環境にも気をつけたい。

・全体助言から（四国大学教授 久米 公先生）

授業案が視覚的に構成されており、学習活動や教師の支援がよく分かる。また、授業のネーミングがよく、子供たちの興味・関心・意欲に繋がっている。

教材が工夫されており、教科書に頼っていないところが良かった。

「生活に生かす力」を育てるには、総合的・横断的な授業展開が必要だが、ただ単に“時代が求めている授業”をしたというだけに終わらせてはいけないのではないか。授業の外で生かした場면을体験させることが大切だと思われる。

5. 全体会

・大会主題解説 生きる力をはぐくむ書写書道教育

どの教科の学習においても、基礎的・基本的な能力となる書写力を身につけるために、児童生徒が主体的に書写書道学習に取り組むことで「生きる力」をはぐくんでいく。

「主体的に書写力を学ぶ」とは

- ① 児童生徒が学習の中で自らが自らの書写力・表現力を身につけようと進んで取り組むことであり、書写書道学習の基礎基本を習熟しようとするものである。
- ② 文字に対する意識や感覚を磨いて、書写力・表現力を深め、広げようとする活動を生んでいくことである。

この二つの学びが体験の継続となり、文字意識・文字感覚を深めて日本語を大切に使う児童生徒一人ひとりとして自信を持って育ち、人間形成としての「生きる力」に繋がると考えられる。

・全体指導 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 長野秀章先生

研究授業では、子供たちの表情がおだやかで落ち着いた様子だった。学習目標と内容、評価が適切であったからではないか。特に、学習量を欲張らず子供の実態をつかんで単元を組んであったのが良かった。

総合との関連においては、これからも論議されるべきであるが、課題解決や学習方法といった、学び方の部分で力をつけていく必要があるのではないか。

また、画像としての文字の力というものをもっと考えていったらよいだろう。

・記念講演 青山学院大学教授 小森 茂先生

書写書道の存続論の前に、学校教育について考える必要がある。

新指導要領では、国語・算数に次ぐ時数が“総合”である。しかし、総合的時間が増えれば増えるほど国語力が低下しているのではないだろうか。例えば、ポスターセッションなどで書かれた物に誤字・脱字が目立ったり、漢字本来の意味を知らずに使ったりしてはいないだろうか。

今後の書写書道教育を考えるにあたって、次の四つの場面で役立っているかを考えていかなければならない。

- ① 文字力が国語科の中で役立っているか
- ② 文字力が他教科の中で役立っているか
- ③ 文字力が総合科の中で役立っているか
- ④ 文字力が自分の生活の中で役立っているか

そして、確かな実力をつけたとき、保護者からの支持をえることができるだろう。

6. 終わりに

今回の北海道大会は、「生きる力をはぐくむ書写書道教育」をテーマに授業や提言が行われた。特に小学校では、「子供の思いや願いを大切にし、生活に生かす力をはぐくむ書写書道教育」を課題として取り組んだ実践や研究を見せていただいた。

「引き出し論」は基礎基本とその活用をうまくとらえた理論であると感心した。引き出しの中身をたくさん作るだけでなく、引き出し自体を増やすことも大切である。この理論で考えると、書写学習で培った課題解決の方法、課題追求の多様性などは、他教科、または本当に生きていくための力となりうらと思った。

「何が身についたか」ももちろん大切であるが、「どのように身に付けたか」と言った学習プロセスの重視、また、そういったいわゆる「学び方の学習」に視点を置き、書写・書道のどのような指導が、児童・生徒の学力や人間形成にどう生かされたかを明らかにし、それが普遍的な形で提供できる教育方法論の構築が必要となるだろう。

「子供の思いや願いを大切にした授業」の実現には、これまでの教師主導の学習から、子供が主体となった学習への転換が求められている。私たちは、一人ひとりの子供とのかかわりの中で、それぞれの学ぶ力、学んでいく力を引き出せるよう、授業の改善を模索していかなければならないと感じている。

第26回全日本高等学校書道教育研究会三重大会報告

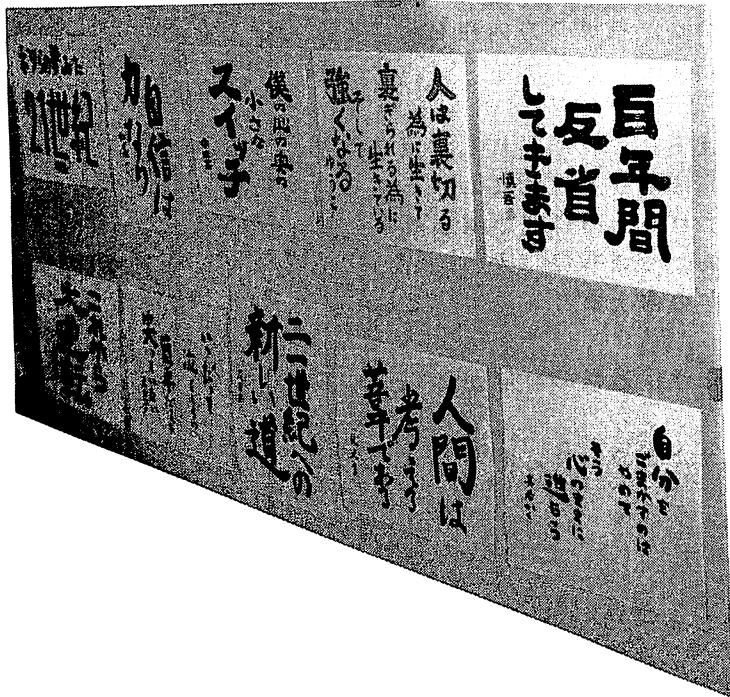
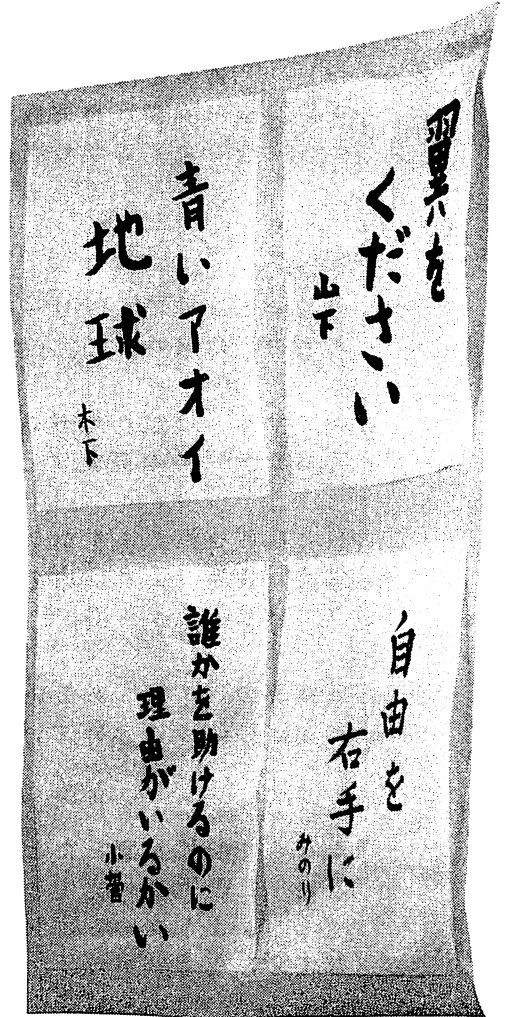
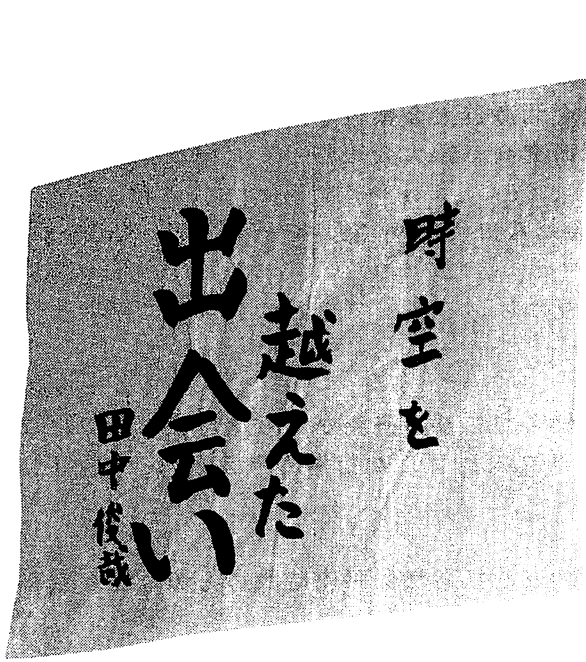
公開授業A 『漢字仮名交じりの書 「言葉と書作」』に参加して

石川県立翠星高等学校 中川 悦幸

- ・ 授業者 菅生 幸三 (三重県立津東高等学校)
- ・ 单元名 書道I 「漢字仮名交じりの書」(東京書籍)
- ・ 单元の目標
 - a 素材の文化的関心を促す。
 - b 書の基本的な美しさを考えさせる。
 - c 主体的な書作の楽しさを味わわせる。
- ・ 対象 1学年 (22名)
- ・ テーマ 言葉と書作

本授業は、第6時限の5時限目である。雰囲気や和らげる話術による、授業の展開は、永年の経験で培った、生徒の心を離さないものであった。先日のしし座流星群を話題にして、全員に目を閉じさせ、今回と3年前の流星を観た感動を語り、生徒に星をイメージさせた。素材に対する、より深い感性を移入させ、毎時間、感想をノートに書かせて、より生徒の心の深奥を知り、さらに的確な作品制作指導の、太いパイプとなっている。おしきせの素材でなく、自分でじっくり、心と対話した上での撰文。次は、いかに表現するか！！ いよいよ現代作家7点の、作品の登場である。構成・文字の大小・強弱・墨の潤濁・余白・落款の位置等解説のうえ、生徒に現代作家作品の感想をノートに書かす。本授業で、作家作品に対する、生徒の感想討論があれば、更に別の角度から、鑑賞眼が広がったのではないかと残念である。生徒が、どの様に鑑賞したのか、知りたかった。前授業の作品は、模造紙に貼られ、前面の黒板と廊下に掲示されている。一人一人の作品のよい点、直す点を的確に指導され、個々の感性を伸ばし、いやが上に創作意欲を、掻き立てる。本授業では、心の発露を表現できるまでの、時間的余裕がなかったが、最終時には、前回の作品と比べる事により、追求している目標に達した喜びを感じ、さらに、生涯にわたり、学び続ける楽しさ、生きがいに、つなげる事ができるだろう。本授業では、古典を反映させていないとの事だったが、1学期に、十分に古典の臨書が、なされているからこそ、悠久のロマンを感じ、さらに、現代の息吹を表現できる力の源になっていると思う。先生と生徒は、ノートにより、太い絆に結ばれているのだろうが、その場で発言がなく、ノートとの対話だけの、生徒の生の声が聞けなかったことが、心

残りである。初めて全国大会三重大会に参加し、全国の多くの先生方が、真剣に書写書道教育に、研鑽を重ねている姿を、目の当たりにし、多くのことを学ぶ事ができた。この喜びと感動を、今後の授業に、活性化していきたい。ありがとうございました。



大会記録（概要）

記録部
（敬称略）

研究協議会Ⅰ（全国大会報告） 10:30～11:30

〈テーマ〉 「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」

〈レポート〉 全日本書写書道教育研究会北海道大会報告 （柿木 千鶴 松浦小）
全日本高等学校書道教育研究会三重大会報告 （中川 悦幸 翠高）

〈ディスカッション〉 （司会 八田 和幸 中、記録 大下 佳宏 辰中）

- ・ 小学校でも高校でも、自ら課題を見つけ、グループなどに分かれて学習する子どもたちの姿に感心した。（感想）
- ・ 古典の学習とは離れた形での漢字仮名交じりの研究があってもよいのではないか。そこから古典を見直すという順序を入れ替えた指導も考えられる。（意見）
- ・ 古典とは何を指しますか？（質問）
→（答え）漢字であれば唐の三大家、仮名であれば平安時代のものなど。教科書に載っているものが中心。
- ・ 鑑賞指導のポイントあるいは観点には、どんなものがありましたか？
- ・ 生徒をどのように導いていくのか。指導の方向性を明確にした指導を心がけたい。
- ・ 豊かな心や感性が育ったと言えるには、作品にどう反映した場合はか？
→（答え1）継続的に見ている指導者が感覚的にわかるもの。第三者にもわかるようにするには、これからの研究の深まりが必要。
（答え2）小学校では、できあがった作品ばかりに注目するのではなく、授業に向かう意欲・姿勢の向上なども見ている。
- ・ ポートフォリオなどを活用した学習過程の評価が考えられる。
- ・ 引き出し論は、おもしろい考えだと思った。書写を通して生きる力をつける一つの方法になりうる。

研究協議会 II 報告

実践発表レポート

研究協議会のまとめ

心をこめて創作するための一試み

～ 漢字仮名交じりの書の学習 ～

石川県立金沢商業高等学校 教諭 水上真由美

1. はじめに

昨年度、初めて高校書道を担当することになり、楷書の臨書から始めた。古典の魅力、線の魅力を感じてほしいと思い取り組んだ。一つ一つ真剣に取り組む生徒がいる一方、私語にもりあがり周りのことが全く目に入らない生徒、「先生、今日は何を書いて提出するの?」ととりあえず一枚を書いて、後はおしまいという生徒も目に付きだした。授業に集中できない生徒にも、まず「心をこめて」その一時間一時間何か感じてほしい。そして、書の魅力を感じてほしい。そこで、関心・意欲を高めるために、楷書、行書の臨書活動の後、創作活動に入る前に取り組んでみたことから紹介したい。

①写経

気持ちを込めて書く事を学ばせる教材として、古来、書の学習としての「写経」を取り上げてみた。現在世間でも行われている写経について説明し、「心を込める。集中する。」ということ 강조했다。最後に自分の夢も書かせた。集中して心をこめて書くことにより、書く楽しさ、一字一字の美しさも感じ取ってほしいと考えた。教室には集中したいいい雰囲気うまれていた。2時間から4時間で完成させた。ただ、授業中にはなかなか集中できない生徒もいたが、その生徒は冬休みの課題として完成させてきた。心のこもった作品ができあがっていた。

②大字書

自分の中にあるものを表現するとはどういうことか、それを感じさせる一つの方法として、全紙に大きな筆で大きく一字書いて見せた。墨をたっぷりつけ、墨を飛び散らせながら力強く筆を選ぶ。自分の中にあるものを体から一気に出すという瞬間を見せると生徒もその表出にびっくりするらしい。歓声が上がった。穏やかな感情を表現するときには、ゆっくり筆を動かした。その後生徒にも好きな文字を書かせるといつもやる気のない生徒も張り切り出したのである。

昨年度はその後漢字の創作に入った。集中するという場面を設定した後は授業はやりやすくなったように思う。自分の字で好きな言葉をいろんな形式で書かせたり、各自好きな一つの法帖を何度か臨書させる等、設定した課題を一つ一つこなそうという姿勢も見えてきた。また、人間関係もできてきたのもあってか、私語に対する注意等にも耳を傾けるようになってきた。

生徒の現状把握にとまどいながらも、その場その場必要なことを考えやって来た。最後に自分の作品を大事に持って帰る生徒もいる一方、いらないと置いていく生徒も多かった。自分の作品に対し、愛着がわくようなそんな取り組みができないものかと強く感じた。

2、漢字仮名交じりの書の学習の実践

(1) 今年度の取り組み

今年度、勤務校が変わり、受け持っている生徒はレディネスができている生徒が多いのでこちらがねらっている目標は到達しやすい。だが、やはり心をこめるというのは一番の基本のように思う。

今年度も臨書活動から入ったが、新学習指導要領では漢字仮名交じりの書の指導が一番最初にきている。漢字仮名交じりの書どう取り組むかを考えた。和様漢字と仮名のマッチした美しい作品も目に入る。奇をてらうことなく、古来の行書と仮名の美しさを感じる。漢字と仮名の臨書活動を終えてから創作活動に入った方がいいのではないかとも思った。そういう古典に根ざした作品をめざすのも良いと思う。しかし、そうでない個性的な作品の中にも、心惹かれるものが多い。言葉への感動、表現したい思いの顕れのように思う。漢字にもいろんな作風があるように、漢字仮名交じりの書にもいろんな作風があって良い。まず、言葉を感じる所から始めよう。そして、自分の字から入り、自分の良さを確認した上で、表現方法の工夫や鑑賞活動等を通して自分にあった表現方法を見つけ、自分の思いを大事に表現してほしいと考えた。そして、表現の幅や魅力を深めるという目標につなげたいと考えた。

(2) 学習内容

①心をこめる（2時間）

ロダン、佐藤勝彦、中川一政の芸術（書）に関するコメントを紹介し、形の美しさよりも、心を込めた美しさ、生きている書、素直な書の美しさを大切にしてほしいと伝える。その後、少し長い文章「つまずいたおかげで」と「負ける練習」のいずれか好きな方を自分の字で一生懸命に書くという課題を与える。

とても心を打つ文章なので、書きながら心がこもっていくと考えた。「つまずいたおかげで」を選んだ生徒が多かった。とても静かな雰囲気ですべて一生懸命取り組んだ。素直な作品ができあがったと思う。

【資料1】

②言葉を探す（1時間）

図書館で自分の好きな言葉をさがす。プリントを用意し、少字数のもの（熟語など）からことわざ、格言、そして多字数（詩など）のもの、良いと思ったものを書かせる。次回からいろんな書き方を学んだ後で、自分の好きな言葉の創作に入ることを伝え、日常生活の中でも意識して探してみるように伝える。

【資料2】

③いろいろな表現方法を学ぶ（3時間）

i 「軽快」と「重厚」な表現の学習（1時間）

「いろは歌」を題材にし、「軽快」「重厚」をイメージさせ、二通りの表現をさせる。軽快なもの、重厚なものを具体的に問いかけ、いろいろなイメージを出させた上で、それをイメージしながら書くという課題を与える。軽快なものは、「風船」「綿」「空気」「雪」など、重厚なものは、「石」「岩」「机」「家」などの意見が出た。それぞれどんな雪か、どれくらいの大きさの岩かなど具体的にイメージさせる。書いている途中、太いだけのものには、「もっと重く、根が生えて引っ

張れないくらいに」など声かけをし、イメージをさらにふくらませた。その後感想（両者の違い）を自由に書かせた。生徒はイメージが違うと書き方も違うし、雰囲気も変わってくることを感じ取っていた。 【資料3】

ii 表現効果の学習（2時間）

題材「しあわせはいつもじぶんのところがきめる」

前回の授業（軽重の違い）の生徒の感想を紹介し、自分が描いたイメージによって、できあがる作風が変わること、書き方（力のいれ具合等）も変わることを再認識させ、今回はいろいろなイメージを大切に、いろいろと工夫をこらして書いてみることを伝える。

- (1) 心を込めて書く。
- (2) いろいろなイメージでかく。
 - ア 熱くエネルギッシュに
 - イ 大らかに、広がりを持って
 - ウ 気持ちを凝縮させて
- (3) 構成を工夫する。
 - ア 行間の工夫
 - イ 行の固まりと、段差
- (4) 表現の仕方の工夫
 - ア 墨の濃度
 - イ 線の太さの変化
 - ウ 文字の大きさと余白
- (5) 自分の気に入った作品をつくる。

1時間目は(1)(2)(3)を、2時間目は(4)について気を配った作品を書き、最終的に一番自分のイメージにあった作風で一枚提出させる。一番好きな作品に印を押して、計約10枚すべて提出させる。

生徒の作品を見ると、(1)の作品と最終作品はかなり変化している。指導では殻を破るように、実際に水書版で試書してみせた。熱くエネルギッシュに書いてみせると、筆を置くときに水書版の音がするので、表現効果も倍増した。いろいろなパターンで書いていくうちに、指で書き出す生徒や行を曲げたり傾けたり、自由な発想で表現する生徒もでてきた。自分の好きなものができるまで何枚も書いていた。力強い作風を取り入れた生徒、太さの変化や構成の工夫を取り入れた生徒などそれぞれ自分にあった表現方法を選んでいた。 【資料4 生徒作品】

④自分の好きな言葉を書く（2時間）

1時間目はいつもの半紙を自由な大きさに切って書かせた。ほとんどの生徒は自分の好きな言葉を見つけてきていた。まだ見つけていない生徒には私が持っている本を用意しておき、参考にさせた。

書いているうちにいろんな言葉がでてきて、自分の言葉をたくさん書き出す生徒もでてきた。

2時間目には色のついた和紙も用意した。まず、前回の生徒作品の鑑賞を行い、良いところ、工夫したら良いところを確認し、各自の作業に入った。好きな言葉の出典

も聞くと、中学校の先生の言葉だといって、大事に書いている生徒もいた。「まずは人のため」先日亡くなった先生で、部活動の顧問だったという。心が熱くなった。又、自分の言葉をつくりだして、たくさんの言葉を次々と書き続けている生徒もいた。最初はすさんだ言葉が多かったが、最後の方は温かい言葉に変化していたのには驚かされ、とてもうれしく思った。一つ一つの言葉をそれぞれが大事にして自分の手を通じ、一所懸命書く姿には感動を覚えた。はがきも用意し、この後予定している手作りの額に入れることも伝えた。

【資料5 生徒作品】

⑤自分の言葉を書く（3時間）

自分の言葉表現する事が難しい生徒もいると考え、基本的にはどんな言葉を書いても自由だが、「なりたいもの」を書くという課題を提示する。宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を鑑賞し、自分はどんな人間になりたいか文の長さは問わず書いてみるよう指示する。鑑賞においては、まず宮沢賢治がどんな思いで書き綴ったのか、どんな人間になりたいと思っていたのか、心情を感じ取ってほしいと思った。その上で、文字からも賢治の思い、人柄が感じ取れたらいいと考えた。自然の声が聞こえたり、1950年の農業を予見している等の賢治にまつわるエピソードも紹介し、自然との調和を重んじたそんな賢治の姿もイメージさせ、自分の願い（言葉）を込めて書くという作業に結びつけたいと考えた。

2時間目にはその課題を自由な表現方法で書かせる。絵と言葉が一体になっている作品や、生徒作品も紹介し、用紙もいろいろ用意しておいた。3時間目には、④と同様、生徒作品の鑑賞を行った後、まとめの作品として、一つ完成させた。

【資料6 生徒作品】

⑥鑑賞、評価（1時間）

クラス全員の作品を張り出し、相互評価を行わせる。いくつか好きな作品を選ばせ、自由にコメントさせる。また生徒に自己評価もさせた。中には「字がきたなかった。真剣に書こうとすると、かえってきれいに書けなかった。」というコメントがあった。作品をみると、確かに一字一字はきれいとはいえないかもしれない。しかし、そこには自然な行の流れや迫力という魅力が感じられた。また、「最初は自分の好きな言葉なんてなかったけど、探しているうちに何とか見つかった。」「言葉を探しているうちに、たくさんいいなあと思う詩が見つかった。言葉探しが楽しかった。」という言葉に関する感想もあった。

他の生徒の作品鑑賞の感想からは、それぞれのクラスメイトの個性を感じていたり、いろいろな良い言葉を味わったり、新しい発見がたくさんあった様子が伺えた。皆お互いに刺激を受けていた。

【資料7】

⑦飾る（2時間）

木の枝を使って、手作りの額を作った。参考作品を用意しておいたが、生徒は皆、木の枝の特徴を生かしながら、個性的な額を創り出していた。皆楽しそうに自分の作品を自分流に飾っていた。木の枝は学校の周り（校庭や中庭など）の木の下を中心に拾ってきた。放課後に、相談室登校の生徒や、よく書道室に顔を出す生徒と一緒に拾ってきた。いろいろな木の種類によって強度や雰囲気が変わってくるので、時間に余裕

があれば、授業の1時間を使って、生徒と一緒に拾いにいっても、さらに創造性が深まるだろうと考える。

【資料8 生徒作品】

3. おわりに（今後の課題）

「自分の字から始める。」どこまで生徒は書けるのだろうかと不安があったが、取り組んでみて、心配は無用だったことに気づく。言葉に感動し、それを自分の字で表現する、それもこだわって。試行錯誤しながら、自分の気に入ったものを創り出す過程、その姿を見ることができてよかったと思う。そして、自分の字をより魅力的なものにするための今後の活動に、より積極的に眼を向けさせることができたと思う。

表現方法の教え方については、まだまだこれから考え、学んでいきたい。今回は余白のとりかた、文字の大きさのバランス等は教科書の作品を例に分析を加える程度で努力目標としたが、3学期仮名を学習し、そこで文字の大きさの変化、行のちらし、連綿、余白などについても、さらに学ばせたいと考えている。

又、線の魅力をどう深めていくかについては、この創作の段階で取り組むのか、他の臨書活動の中で集中的におこなうのかについても検討を重ねていきたいと思う。

その他、鑑賞方法について、他の先人達の魅力をどのように鑑賞するか、臨書活動で感じる人が多いとも思うが、有効な作品はどういうものか。漢字仮名交じりの書の鑑賞法についても今後考えていきたいと思っている。

今回は「飾る」というところまでふくめ、生活の中に作品を取り入れてほしいと考えた。書が、言葉が、もっと生活の中にはいてほしいと願いつつ、今後教材研究を深めたいと思っている。

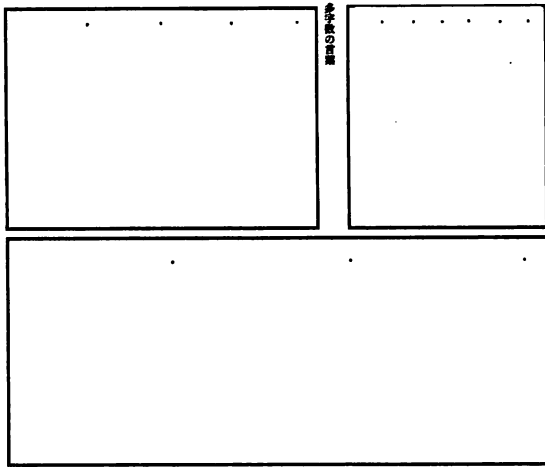
【資料1】

負ける練習

(省略)

つますいたおかげで
つますいたり ころんだり したおかげで
物事を深く考えるようになりました
あやまちや失敗をくり返したおかげで
少しづつだが
人のやることを 温かい眼で
見られるようになりました
何回も追いつめられたおかげで
人間としての
自分の弱さと だらしなさを
いやというほど知りました
だまされたり 裏切られたり したおかげで
馬鹿正直で 親切な人間の暖かさも知りました
そして...
身近な人の死に逢うたびに
人のいのちのはかなさと
いまここに
生きていくことの尊さを
骨身にしみて味わいました
人のいのちの尊さを
骨身にしみて 味わったおかげで
人のいのちを
ほんとうに大切に
ほんものの人間に裸で逢うことができました
一人のほんものの人間に
めぐり逢えたおかげで
それが 縁となり
次々に 沢山のよい人たちに
めぐり逢うことができました
だから わたしの まわりにいる人たちは
みんな よい人たちばかりなんです

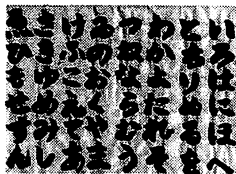
【資料2】



創作

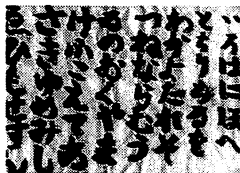
自分の好きな文字を組み合わせ、
自由に、思い思いの文字を
書いてみる。そして、その
文字を組み合わせる。

【資料3】



いろはにほへ
とちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うねのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
急ひぎせすん

軽快な感じで書いているときは、重厚な感じで書くよりも、力を入れずに書きました。それに風船など軽いものをイメージしてかきました。重厚な感じで書くときは、軽快な感じよりも力強く書きました。

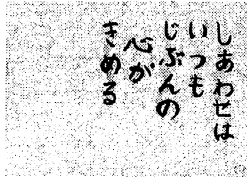


いろはにほへ
とちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うねのおくやま
けふこえてあ
さきゆめみし
急ひぎせすん
五字書

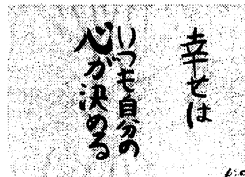
重厚な感じで書くときは気持ち的にも重〜くはいつてみた。ゆっくり書いた。軽快な感じで書くときは軽い感じではいった。さらっと書いた。書くときのスピードが違った。

生徒のコメントから
軽快・・すらすら書いた。文字がつながった。力は入らなかつた。小さい。筆先だけ使った。優しい気持ちになった。きれいだ。
重厚・・ゆっくり書いた。一面一面しっかり書いた。力強く書いた。強く握っていた。力が入った。大きい。好き。私は重厚派だと思った。
時間がかかった。どっしりしている感じ。厳しい感じ。インパクトがある。
気の持ちようで字がすごく変わるので、気持ちって大切だと思いました。
文字の形が変わった。

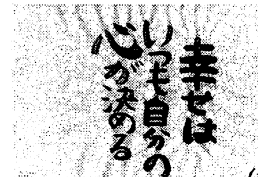
【資料4】



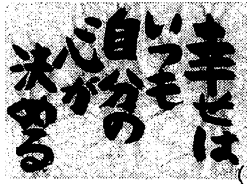
(1)



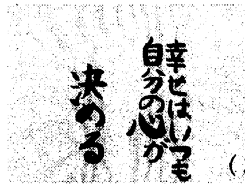
(3) -ア



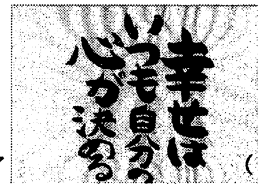
(4) -ア



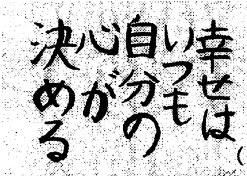
(2) -ア



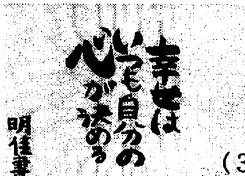
(3) -ア



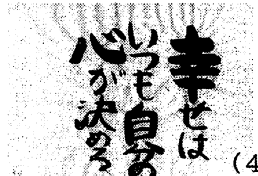
(4) -ア



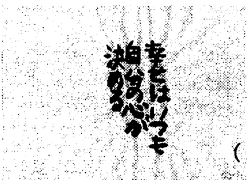
(2) -イ



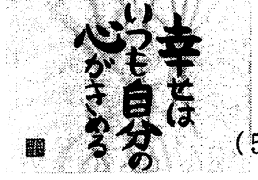
(3) -イ



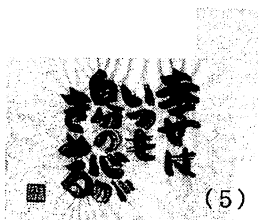
(4) -イ



(2) -ウ



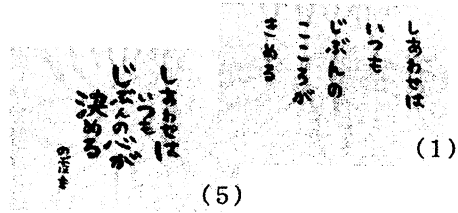
(5)



(5)

しあわせは
いつも自分の
心がきめる

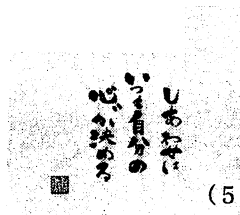
(1)



(5)

しあわせは
いつも
自分の心が
きめる

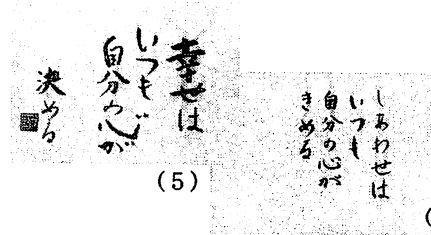
(1)



(5)

幸せは
いつも
自分の
心が決める

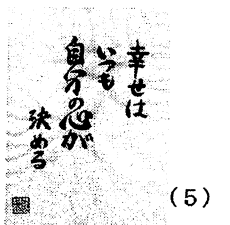
(1)



(5)

しあわせは
いつも
自分の心が
きめる

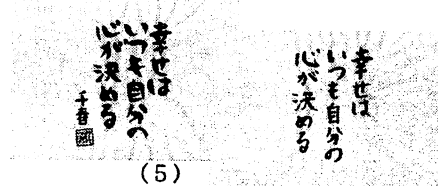
(1)



(5)

しあわせは
いつも
自分の心が
決める

(1)



(5)

幸せは
いつも自分の
心が決める

(1)

あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは

あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは
あしたは

夢見て
笑って
いっしょに
いっしょに
いっしょに
いっしょに
いっしょに
いっしょに
いっしょに
いっしょに

何かさ
欲しかった
欲しかった
欲しかった
欲しかった
欲しかった
欲しかった
欲しかった
欲しかった
欲しかった

心には
重さがある
僕は思う
僕は思う
僕は思う
僕は思う
僕は思う
僕は思う
僕は思う
僕は思う

潮風の音に
ふに舞う地も家
なから貝殻の音る
なから貝殻の音る
なから貝殻の音る
なから貝殻の音る
なから貝殻の音る
なから貝殻の音る
なから貝殻の音る
なから貝殻の音る

ますは
人の
たのに
たのに
たのに
たのに
たのに
たのに
たのに
たのに

ひとは
輝いた
輝いた
輝いた
輝いた
輝いた
輝いた
輝いた
輝いた
輝いた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

この木
何の木
何の木
何の木
何の木
何の木
何の木
何の木
何の木
何の木

朝顔は
濁り物である
市の空
市の空
市の空
市の空
市の空
市の空
市の空
市の空

詩は
だて人向か
だて人向か
だて人向か
だて人向か
だて人向か
だて人向か
だて人向か
だて人向か
だて人向か
だて人向か

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

早起
早起
早起
早起
早起
早起
早起
早起
早起
早起

常に
全力
全力
全力
全力
全力
全力
全力
全力
全力

水色
水色
水色
水色
水色
水色
水色
水色
水色
水色

油の温度は
百八十五度が
最適だ
最適だ
最適だ
最適だ
最適だ
最適だ
最適だ
最適だ
最適だ

とまかく
目付的
目付的
目付的
目付的
目付的
目付的
目付的
目付的
目付的

一本の
花は
春に
春に
春に
春に
春に
春に
春に
春に
春に

その時に
その時に
その時に
その時に
その時に
その時に
その時に
その時に
その時に
その時に

いつも
いつも
いつも
いつも
いつも
いつも
いつも
いつも
いつも
いつも

他人の心
私に
持たないでほしい

としま
とつても
心はいつま
でも
ピマであり
たい

いつも明るく
そして元気で
みんなに優しい
そういうものに
わたしはなりた

自分で
決心したことは
極めるまで
やりとげたい

自分の心に
正直なるに
私はなりた

思いやりのある娘
人を愛する娘
人に愛される娘
優しい娘
何事にも誇りする娘
私は
そういう娘になりた

いつも
笑ってられる
そういう人に
私は
なりた

解まん強
心で
人には
いっも
なりた

誰か
強
なりた

今つらくても
いつか必ず
笑顔
みんなは
地球が
なりた

自分
なりた

自分
なりた

他人に何を
言われたも
自分で深める
そんな強
私はほ
なりた

風よ
水よ
人よ
泣かなくまわれ
まごあれ

自分の
夢を
わたしは
なりた

金高心部の
エース
なりた

自分は自分
わたしはわたし
自分に自信を
もちたい

宇宙の中の
ちいほけな
ほみ

自分
なりた

友達がつらいとき
助けてあげられる
そういう人に
私は公りた

苦
があるから
楽がある

自分
なりた

いつも
笑って
いた

【資料7】

漢字仮名交じりの書 鑑賞表

素敵な作品ができあがりました。クラスのみなさんの作品を鑑賞しましょう。

★いいなあと思った作品はどれですか。どんなところが好きですか？ コメントを自由に書いてください。一番好きな作品に二重丸をつけてください。

	コメント
• さんの という作品	
• さんの という作品	
• さんの	
•	

★他の人の作品について思った事を自由に書いてください。

★自分の作品について

①次の観点で5段階で評価してください。(A～E)

- | | | | |
|--------------|-----|------------------|-----|
| 完成度 | () | 一どのような思いを込めましたか。 | () |
| 自分の思いを込められたか | () | 一どんな工夫をしましたか。 | () |
| 表現の工夫ができたか | () | 一生懸命取り組めたか | () |

②自分の作品について自由に書いてください。書きながら思ったことでも何でも結構です。

(H 番・氏名)

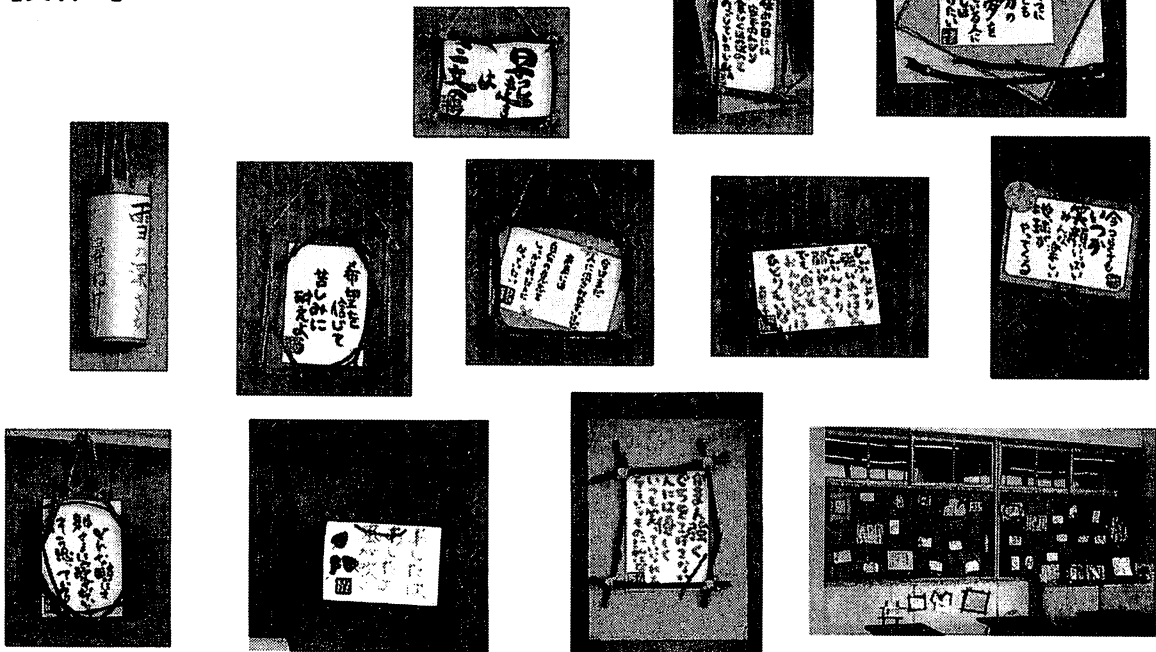


「全てはきっとこの手の中にある」という歌詞が大好きで書きました。自分の手の中にはいろいろなものや可能性が詰まっていると思う。

実際に飾りたいと思う作品があった。

みんないろいろな事を考えているんだなと思いました。その人その人の個性が表れているような気がしました。

【資料8】



文字を書く意欲を引き出すための書写学習の広がり

—総合的な単元における生き生きとした場面の設定と授業の工夫—

野々市町立菅原小学校

堀 順一郎

1. はじめに

わがクラスは6年生、39名のクラスである。習字教室に通っている児童は4、5名程度である。休み時間などは活発に友達と遊んだりしているが、授業となると消極的で控えめな児童が多い。

4月当初、書写の授業では、「ああ～嫌や・・・」、「めんどくさい」、「俺、字きたねえし」などマイナスの発言が多く聞かれ、毛筆の時間となるとさらにその声が大きくなるような現状であった。また子供達の関係の中で生まれた「〇〇さんはうまいけど、俺なんてどうせ下手やし・・・」など消極的な声も聞こえるような状態であった。

このように、書く意欲が失われる原因は、子供たちが書写学習に取り組む際、手本を重視するあまり文字の形にとらわれすぎてしまったり、形よくかけている友達と比較して自信をなくしてしまったりするのではないかと考えた。そこで一学期から①心を込めて書くこと、②以前の自分の作品と今の自分の作品とを比べ、変わった所を見つけるの2点を中心に取り組み、「字はその人の心を表すもの。だから上手い、下手は関係ないんだ」と励ましてきた。

また、書写の時間はいつも字を上手く書くための練習の時間というイメージが強く消極的になるので、少しでも意欲が高まるように、年間を通して教科書を中心とした基礎・基本の学習に加えて、総合的な学習や他教科の発展学習等に、書写の要素を取り入れた総合単元を構成し、書写で学んだことを生かす場の設定を行った。

2. 意欲を引き出すための学習の広がり

4月の国語の「短歌と俳句」の発展学習として行った『芸術家になろう！』では、色や大きさが様々な色紙を用意し、その中に自分の好きな俳句と絵を書き入れた。いつも以上に何枚も練習する姿が見られたり、意欲的に取り組んでいたように感じられた。子供達の感想では、「紙に模様や色があって何かうまくなったように思った」や「筆ペンで書いた方が小筆よりも書きやすい」や「いつも白と黒で暗いイメージだけど、紙の色や絵があって明るい感じがして楽しかった」などがあった。

また、コンピューターの普及により、身の回りから手書き文字が少なくなり、活字が多く見られるようになってきた。そこでコンピューターの時間に、手書き文字と活字を比較し、手書き文字の良さなどに気づくきっかけとなればと考えた。しかし「手書き文字の方が温かい」や「手書きの方が気持ちを伝えるときはいい」の意見も出たが、「活字の方が見やすい」や「きれい」という意見が多かったのが残念だった。

今後の予定として、自分の好きな言葉や文字を書く書き初め、卒業記念の色紙や保護者・先生方との会食会の招待状などを創造的な活動として取り組む予定である。

書写の時間での基礎・基本を生かす場面のある取り組みを定期的に取り入れることで、子供達にとってすごく意欲がわいてくるように思う。

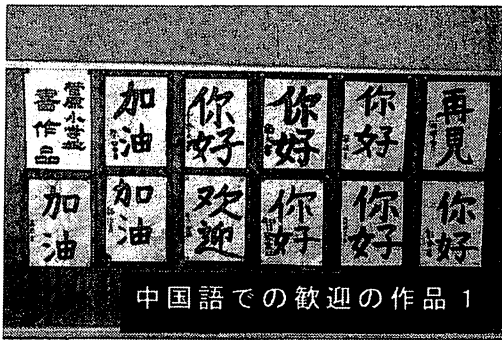
①「芸術家になろう！」 ・自分の好きな俳句を選ぶ。 ・作者の気持ち、情景を思い浮かべ、色紙に俳句と絵を工夫して書く。	国語 図工
②「手書き、パソコンどっちが良い？」 ・手書きと活字を比べたり、お店の看板、メニュー表などをもとにして書写について考え直してみる。	総合 国語 図工
③「ひらがな覚えてる？」 ・正しいひらがなの形をもう一度、50音表をもとに確認し練習する。	国語
④「深・小学の友達に年賀状を送ろう！」 ・「星ふる夜」で学んだことを生かして、深・小学の友達に心を込めて年賀状を書く。	総合
⑤「自分の好きな言葉を書き初めで書こう！」 ・来年の自分の思いを書き初めに表し、心を込めて書く。「夢の実現」等	国語
⑥「卒業記念に自分の好きな言葉、文字を色紙に書こう！」・・・予定	国語 総合
⑦「会食会の招待状を感謝の気持ちを込めて書こう！」・・・予定	学活
⑧「平和書道展に出品してみよう！」「硬筆コンクールに出品しよう！」	国語

3. 実践例

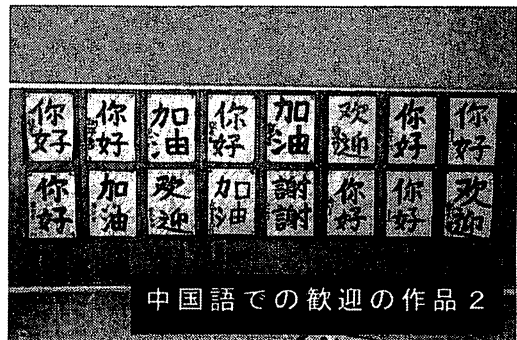
本校では、町の交流事業として中国の深・小学と交流をしている。今年度は深・小学の友達を受け入れる立場であった。中国、深・についての調べ学習に入る前の事前アンケートでは、中国と聞いてイメージするものの大多数が漢字、書道、烏龍茶などであった。そこで、学習を進める中でどのように深・小学の友達を歓迎しようかと昨年ホームステイした友達の話などを参考にし相談した結果、一つとして中国語で歓迎の言葉を書くことになった。

文字は、中国語について調べたグループの資料を参考にし、以下の中から選択して心を込めて書くことにした。

「迎（ようこそ）」、「加油（がんばって）」、「深・（しんせん）」
 「謝謝（ありがとう）」、「再見（さようなら）」、「・好（こんにちは）」



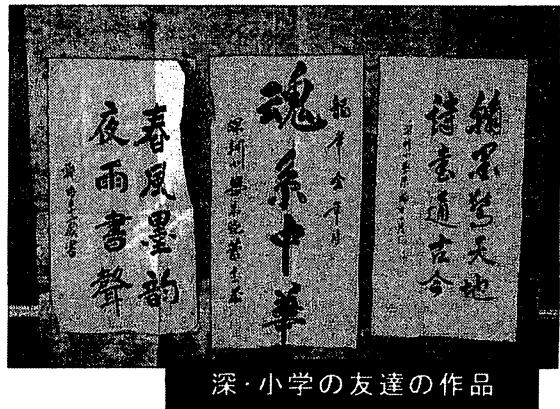
中国語での歓迎の作品 1



中国語での歓迎の作品 2

今までの書写の時間と違い、作品が具体的に生かさせる（相手の存在がある）という面や深・小学から頂いた児童作品に刺激を受け、できる限り気持ちを込めてうまく書こうと前向きな考えになっていく児童の姿勢も見られた。

また、クラスみんながたくさん思い出を作った直接交流を終え、総合的な学習『広げよう友達の輪』の活動3として、身近に感じられるようになった深・小学のみんなに年賀状を書くこととなった。ふつう年賀状は葉書に書くものではあるが、用紙（種類、サイズ）や筆の種類は限定せず、言葉も自分が最も書きたい、書きやすいものとし、創造的な活動になるようにした。



深・小学の友達の作品

時数カウントとしては、書写単元『文字の大きさと字配り』の発展学習としての第三次にあたる5時間を総合的な学習『広げよう友達の輪』の活動3に組み込むかたちとした。

国語科 書写
『文字の大きさと字配り』 3時間

指導計画

第一次 「星ふる夜」を書くことを通して、漢字と仮名の大きさの違いや左右の文字の並び、余白などの字配りの難しさに気づく。

第二次 個人で課題、練習を考え、文字の大きさと字配りに注意して「星ふる夜」を書く。



「星ふる夜」で学習したことを生かし、漢字と仮名の大きさに注意して、深・小学の友達に年賀状を書く。

- 第1時
- 第2・3時
- 第4時
- 第5時

総合的な学習
『広げよう友達の輪』-国際理解-
17時間(書写的要素5時間)

指導計画

活動1

- 「深・小学のみなさんを迎えよう」
- ・中国、深・ってどんな所?
- ・中国語では何て言うの?
- ・町花「椿」の花で学校を飾ろう!
- ・歓迎の言葉(中国語)を毛筆で書こう!

活動2

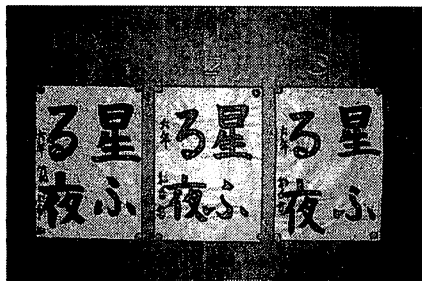
- 「深・小学のみなさんと交流しよう」
- ・一緒にフォークダンスをしよう!
- ・深・のみなさんに質問をしよう!

活動3

- 「深・小学のみなさんに年賀状を送ろう」
- ・深・小学のみなさんに心を込めて年賀状を送ろう!

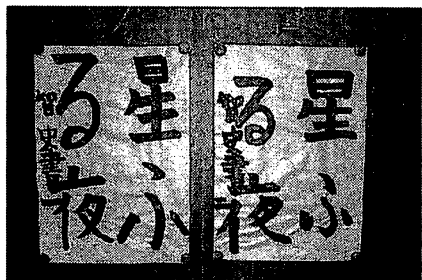
年賀状の計画を立てる。
試書し、各自の課題を見つける。
課題達成のために、練習を工夫して、年賀状を書く(練習)。**【本時指導案】**
学習してきたことを生かし、心を込めて、年賀状を書く(完成)。

「書写」第一次、第二次の作品



○特に「夜」の縦画がすっきり書けないということで縦画の部分練習や「夜」を何回も繰り返し、納得いくまで努力していた。

本人の感想 「ふ」は2の方がうまく書けたけど、自分自身の課題だった「夜」がうまく書けて良かった。



○いざ、毛筆で正しく「ふ」を書こうとすると、形がわからず、手本を参考に何度も「ふ」の練習をしていた。

本人の感想 「ふ」の正しい形がわかって、うまく書くことができて良かった。



○どうしても漢字が大きくなりすぎるので、マス目シートを使ったり、手本の上をなぞったりしていた。また1時限に10枚以上書くなど、納得いくまで、がんばっていた。

本人の感想 最初に書いたのと比べてすごくうまくなったような気がする。やっと書けた。つかれた～。

(1) 本時の学習

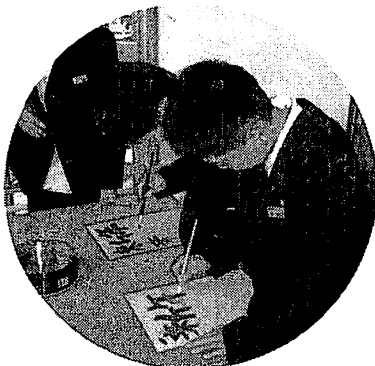
- ①目標
- ・「星ふる夜」で学習したことを生かして、前時で見つけた各自の課題を達成するために練習を工夫して、年賀状を書くことができる。
 - ・深・小学の友達との楽しい思い出を胸に、心を込めて創造的に年賀状作りを楽しむことができる。

- ②準備
- ・プリント（計画）
 - ・ビデオ（筆使いの基本）
 - ・水書版
 - ・ビニルシート
 - ・挿絵プリント（必要な児童）
 - ・大筆
 - ・用紙（半紙，色紙（大），色紙（小），葉書，短冊，模造紙）
 - ・手本（平仮名五十音表）
 - ・手本（年賀状に出てくる漢字）

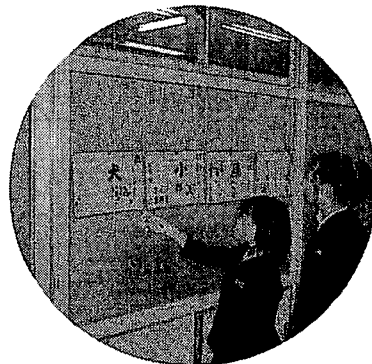
③練習方法の工夫

課題を各自が持つだけではなく、その課題に迫れるように練習方法も多様に用意し、教室の前や後ろ、廊下などに各コーナーを設ける。また、課題を達成するために、児童が自己選択や自己決定をしながら進めていけるようにする。主なコーナーは次の通りである。

- ・文字と仮名の大きさ？，文字や行の中心？→マス目シート
- ・筆圧，姿勢→運筆練習
- ・基本的な筆使い？→ビデオコーナー
- ・文字の形？→手本コーナー
- ・止め，はね，払いなどの部分？→水書版，掲示プリント
- ・挿絵，文字，余白のバランス？→ビニルシート



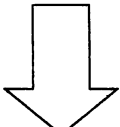
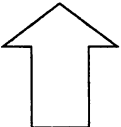



水書版で何度も練習



掲示プリントで確認中

④展開

児童の活動	教師の支援○と評価◎
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">今日のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの作品を振り返り、各自の課題を整理し、練習方法を工夫する。 ・「星ふる夜」で学習したことを生かし、漢字と仮名の大きさに注意して、年賀状を書く。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">各自の課題を確認</div> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 文字と仮名の大きさ →マス目シート </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 文字や行の中心 →マス目シート </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 筆圧、姿勢 →運筆練習 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 仮名の形 →仮名手本参照 (五十音表) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 基本的な筆使い →ビデオ </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">練習</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 部分的な繰り返し練習 →水書版 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 漢字の形 →手本参照 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 止め・払い・はねなどの部分的な所 →掲示プリント参照 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> 挿絵・文字・余白のバランス →ビニルシート </div> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">批正</div> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">まとめ</div> </div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・年賀状がうまくできたぞ！ ・次は完ぺきに完成させるぞ！ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標に気づくようにポイントを押しさえる。 「漢字と平仮名の大きさ」 ○前時までの児童作品数点を掲示し、振り返りをする。 ◎前時までの学習、プリントをもとにして自分の課題を確認できたか。 ○それぞれの課題に対しての練習方法を例を提示して確認する。 ◎自分の課題克服のために意欲的に練習、工夫できたか。 ○運筆に悩んでいる児童やどうしてもわからない児童に対しては、筆をもって体感できるようにする。 ○各自の課題と一枚目の作品と比べポイントが明確にわかるように助言する。 ○友達立場から評価してもらおう (相互批正) ○本時の成果と課題が次時に生かされるように意識させる。 ◎心を込めて書くことができたか

(2) 授業を終えて

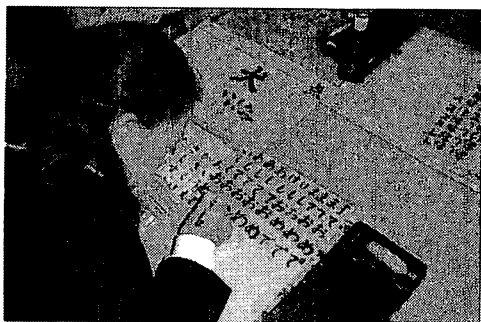
・多様な練習コーナーを設けることで、意欲的に練習コーナーで練習している姿が見られた。しかし自分の課題達成に向けての練習ではなく、興味本意ですべての練習コーナーに行く姿も見られた。子供達が意欲的に取り組むという点ではとても良かったが、反省として一人一人がもう少し課題を見つめ直す観点を明確にする必要があったように思う。

・平仮名の形や小筆、筆ペンの使い方でも苦労している子供達が見られた。今後の課題としてその点をどのように取り組んでいくかが重要である。

・実際に交流した友達に送るという面で、各自が個性を出し楽しそうに取り組んでいる姿が印象的であった。

・友達と相互評価したことや、友達の取り組みに影響を受けて前向きに計画が変わる子供も出てきた。

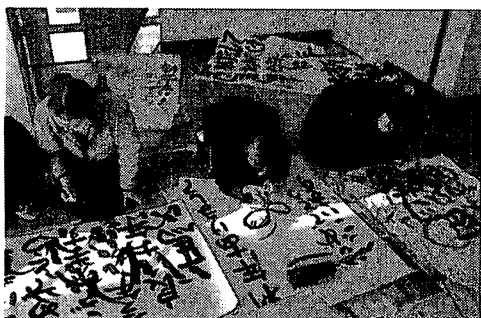
年賀状練習風景



大筆に比べ、小筆は書きにくいということで繰り返し練習。小筆は慣れた？



模造紙に大筆を使って練習中。

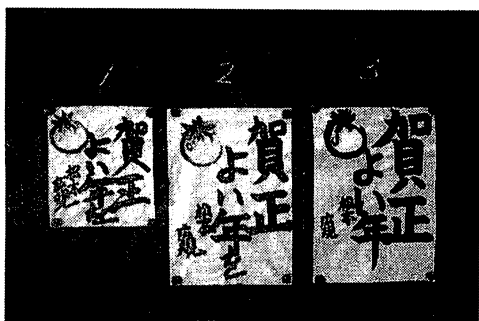


模造紙に文字や絵を入れて練習。
変えていろいろレイアウト

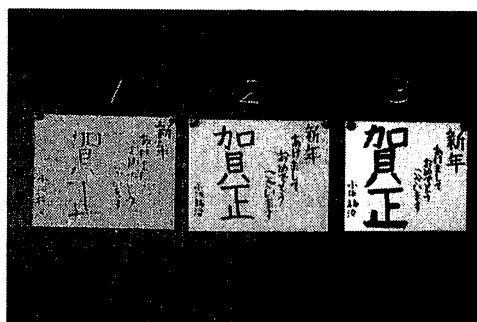


篆書に挑戦！ 黒板や水書版を墨の色を使ってどの形が良いか検討中。

(3) 児童作品



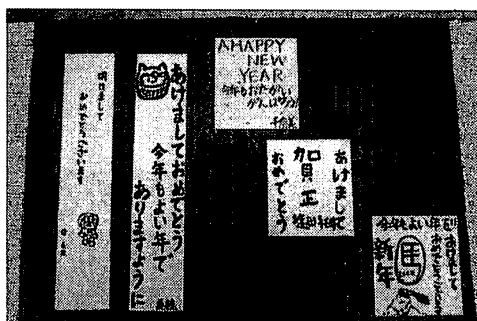
初めて、朱色の墨に挑戦。当初色紙に書く計画だったが、字の大きさやバランスを考え、半紙に変更。



「賀正」を強調させるために、文字の大きさだけではなく、筆をかえて目立つように工夫。



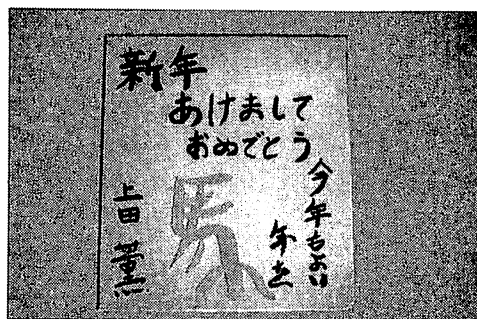
模造紙に一番最初に挑戦！余白の部分をどのように生かすかということで、墨を使ってイラストを書き入れた。



ミニ色紙、短冊に挑戦。筆で絵を描くことで小筆の使い方も少しは慣れたかな



ふつう葉書に挑戦。慣れない小筆と文字が小さいということでみんな苦労していた。



篆書に挑戦。クラスの仲間がこういう文字があることを発見するよい機会になった。

4. 成果と課題

4月当初、書写に対してマイナスイメージが強く、まずここから変えないと何も始まらないと考え、一番最初に様々な色の色紙に俳句と絵などを工夫して書くという取り組みをした。子供達は、今までの白い半紙に黒い墨という白黒2色の暗い世界と違って、何か明るく新鮮な気持ちで取り組んでいたように思う。また、文字の形などにいっさいこだわらず、心を込めて書くという気持ちの部分と自分の変容に気づくことの2点を中心に取り組んできたため、少しずつではあるが自己否定する考え方や書写に対してのマイナスのイメージが少しずつ変わってきた。大きな変化として、用意するときには必ず出ていた「めんどくさい」という言葉がなくなった。

子供達が意欲を持って書写に取り組むという点においては、今までの基礎基本の練習で終わるのではなく、学んだことを生かす場として総合的な単元を構成することで、何枚も何枚も練習する子供達や放課後納得いくまで練習していく子供達が出てきており、クラス全体としても「うまく書くにはどうすればいいん？」など書写に興味を持つ子供達が増えてきたように感じる。

子供達の意欲という面においては、成果はあったように思うが、基礎・基本の技術的な面においては課題が多く残った。自分自身、気持ちの部分に強調しすぎたり、書写の学習で学んだ基礎・基本を生かすというより、練習だけの書写から書写を日常生活に生かすということばかりに目がいったために、本来学ぶべき基本的な技術面が疎かになってしまった。

来年度に向けての課題としては、基礎基本の技術的な面と意欲につながる気持ちの部分のバランスを考えて取り組んでいく必要がある。

<テーマ> 「授業実践に向けての具体的手立てを探る～授業実践から～」

<レポート> 高等学校実践発表「心をこめて創作するための一試み
～漢字仮名交じり文～」 （水上真由美 記録員）

<質疑応答>

（助言 塩 泰尚 県教委、司会 広畑 登代子 記録員、記録 野村 典子 記録員）

- ・漢字仮名交じり書の鑑賞は、どのような方法で行ったのか。（質問）
→（答え）友達の商品については、いいところを中心にコメントを自由に書いて相互評価とした。また、自己評価としては、完成度だけでなく字にこめた思いや表現の工夫、取り組んだ姿勢なども合わせてふり返りをさせた。
- ・生徒達の自己評価を、教師自身はどう評価するのか。（質問）
→（答え）自己評価は自分に対しての厳しさとも取れるので、正確な評価は難しい。一生懸命やったがうまくいかなかった等、自分の試行錯誤が出ている姿について評価したいと思う。
- ・今回は小筆を使用した小さい作品だったようであるが、大きな作品の制作についてはどのように考えていらっしゃるのか。（質問）
→（答え）まず、家に飾る作品をと考えた。大きな作品は次の目標とし、まず小筆を使った作品に取り組ませた。
- ・相互評価の評価表は、どのように生徒に返すのか。
→（答え）これからの課題であるが、よさが残るような一覧表を考えていきたい。

（助言）学習指導要領の最初に書いてあるのが関心意欲態度であることから分かるように、このことが最初の目的であると同時に、最終目的であろう。生涯に渡って書に親しんでいく態度を養う、こういった観点を大事にされた実践だと思う。同様に自分の作品に愛着がわくような取り組みとして、教師が生徒の作品を大事にし作品集などにして返してあげるといふのも、生徒の心には良い思いとして残ることだろう。

すさんだ言葉を書いている生徒にどのように温かい言葉を学ばせ、自発的にできるようにするかを教師が工夫することではじめて豊かな心を育むことができる。いろいろな場面を分析し、自分の授業に計画的に取り入れてそれを残し、次の授業に役立てていくことによりそのねらいに沿った授業の展開ができるのではないか。

授業に当たっては、関心意欲態度、芸術的な関心や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力、これらの能力をつけ、育んでいくためにどうすればいいかという観点を計画的に授業に臨んで欲しい。

〈レポート〉 小学校実践発表「文字を書く意欲を引き出すための書写学習の広がり」
—総合的な単元における生き生きとした場面の設定と授業の工夫—
(堀 順一郎 菅原小)

〈質疑応答〉

(助言 岡部 朋代 県教、司会 大浦 努 不動小、記録 中辻 育代 粟生小)

- ・ パソコン（活字）と手書き文字の使い分けをどういう風に児童に考えさせたのですか？（質問）
→（答え）食事をする際お店にあるメニュー（お品書き）が、どう書かれているとおいしそうですか、という問いかけをした。もちろん単純な結論は出せないが、文字意識を高め、活字と手書き文字、それぞれの特徴や使い分けを考えるきっかけにはなった。
- ・ 児童に付けたかった力は何ですか？（質問）
→（答え）書写的には、漢字とひらがなのバランスを考え、文字の大きさ・字配りを課題とした。総合的な学習のねらいからは、具体的には年賀状を書くことで、意欲の高まりや児童同士の人間関係の向上、友情の深まりを期待した。
- ・ 書写学習のまとめとしての卒業制作で、色紙に漢字二文字を書く取り組みをしたとき児童の真剣さを引き出すことができた経験がある。生徒のやる気を引き出す取り組みの工夫は？（質問）
→（答え）色紙や短冊など、書式を変えてみるのも効果があった。
- ・ 文字の大きさや中心・バランスをそろえたりするために、紙を折ったりする生徒がいる。その扱いや支援について教えて欲しい。（質問）
→（答え）小学校書写の全体的な趨勢まではわからないが、特に縛りは設けず、下敷きに書かれた枠や線などを参考に書くよう指導している。
(会場からの意見)
 - ・ うまくできたという気持ちにさせるために認めている。
 - ・ 目当てに応じて使い分けている。

(助言)「書く」という活動は、学校生活において欠くことのできないものである。「総合的な活動」の取り組みの中では、ポスターや案内状に書かれた文字を見る。中学生ともなれば大人顔負けの文字を書く生徒もいる一方で、デザイン性に走りすぎとめ・はね・払いをデフォルメ・省略しすぎる文字も見ることもある。目を引くが、読みにくい。基本的な部分を書写の学習で押さえる必要がある。

四月から現在に至るまでの取り組みで、児童の心が育って来ていることが十分うかがえるし発表であったし、基礎・基本の部分がおろそかにされているとも感じなかった。指導者自身の研鑽を含め、書写の得意な生徒やインターネットを活用してでも、良いものを児童・生徒に示していくことがこれからはますます必要である。

新指導要領の中でも書写の時間数を確保して、「伝え合う力」に必要な「書く」力を、児童・生徒につけさせていって欲しい。

連 盟 の あ ゆ み
連 盟 役 員 一 覧
連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ
(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ〔金沢大学教育学部書道演習室〕
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 石川県書写書道教育連盟設立総会〔ホテル六華苑〕
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長]	三宅正敏
	[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
	[金沢市中学校教育研究会習字部長]	大野重幸<金沢市立金石中校長>
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐藤政俊<金沢女子高校長>
	[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小校長>
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	兼 任
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>	
	: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>	
	: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>	
	: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長> 木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課: [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 永井志津子 [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 高沢幹夫	

*金沢地区

- : 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
- : 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
- : 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

*加賀地区

- : 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>
- : 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>
- : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>
- : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

*能登地区

- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
- : 高校部: 嬉喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

- :事務局長： 永江芳教<金沢商高教諭>
- :副事務局長： 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- :庶務部：部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
- :会計部：部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
- :研究部：部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
- :会報部：部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>
- :研修部：部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
- :調査部：部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会

～17 平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成 2年) 10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第3回理事会

1991. 2. 23 第4回理事会

(平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]

第6回理事会

1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成 4年) 3. 30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

5. 28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10. 20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行

(平成 5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行

(平成 6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]

第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]

第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行

- (平成 7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会[鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]
第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
(平成 8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
第18回理事会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行
(平成 9年) 6. 25 第19回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行
11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]
第20回理事会

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

11. 2 第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]
第22回理事会

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号) 発行
(平成11年) 6. 16 第23回理事会 [六華苑]
9. 『石川県書写書道教育』(第19号) 発行

10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
第24回理事会

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号) 発行
(平成12年) 6. 9 第25回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第21号) 発行

12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]
第26回理事会

2001. 3. 『石川県書写書道教育』(第22号) 発行
(平成13年) 6. 9 第27回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]
第28回理事会

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	記念講演	
			講師	演題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省指導学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	續木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳴和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富樫小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	富島町立越路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1998.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実践を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてもかける」をめざして—
9	1998.11. 2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」
10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (太東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」
11	2000.12. 7	【金沢勤労者プラザ】 ・パネルディスカッション ・研究発表		

平成13年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

顧問 山岸 勇<石川県教育委員会教育長>

相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 水田茂良 横西 清

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成
福田教導 永井志津子 中山武久 ☆林道子

会長 藤 則雄<金沢学院大学教授・前金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長] 村井加代子
[石川県私立幼稚園協会理事長] 源 通 <妙源寺幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会書写部長] ☆金丸洋子 <金沢市立米泉小学校校長>
[金沢市中学校教育研究会書写部長] 金浦修郎<金沢市立城南中学校校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長] ☆寺島恆機<県立金沢錦丘高等学校校長>
[石川県特殊教育諸学校校長会代表] ☆新保紘子<県立医王養護学校校長>
[石川書写の会会長] ☆細川 聰 <志賀町立堀松小学校校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 押木秀樹 <上越教育大学助教授>
<前金沢大学教育学部助教授>

理事長 石浦義彦<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

: 小学校部: ☆大浦 努<金沢市立不動寺小学校教諭>
北野勝彦<小松市立稚松小学校校長>
西村由紀子<七尾市立有磯小学校校長>
: 中学校部: 桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭>
: 高校部: 林 昭悦<県立津幡高等学校教諭>
: 盲・ろう・養護学校部: ☆中西幸夫<県立錦城養護学校教頭> [県特殊教育諸学校
教頭会代表]

監事 富樫慶樹<金沢市立芝原中学校校長> 松井喜美子<河合谷小学校校長>

理事

*石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] 高 絹子<七尾教育事務所指導課長>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事] 塩 泰尚<学校指導課主任指導主事>

***金沢地区**

- : 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部： ☆石野昌子<長坂台小学校教諭> 中川晃成<蕪城小学校教諭>
- : 中学校部： 福島絹子<金沢市立長田中学校教諭> 古本佳世<城南中学校教諭>
- : 高校部： 永江芳教<松任高校教諭> 久田英夫<金沢伏見高校教諭>
- : 大学部： 北室正枝<金沢大学講師>

***加賀地区**

- : 小学校部： 阿戸壮一郎<松陽中学校校長>
- : 中学校部： 小座間美智子<山中中学校教諭> 高市比呂子<東和中学校教諭>

***能登地区**

- : 小学校部： 帽子山瑞枝<西岸小学校教頭>
- : 中学校部： 山田寿一 <中島中学校校長>
- : 高校部： 嚙喜代子<県立飯田高校教諭> 大場豊治<中島高校校長>
- : 盲・ろう・養護部： 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長： 中川晃成<蕪城小学校教諭>
- : 副事務局長： 岩田稚子<高岡中学校教諭>

- : 庶務部：
 - 部長・田中学<金沢中央高校教諭> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
 - 部員・北野京子<大根布小学校教諭> ・柿木千鶴<松南小学校教諭>

- : 会計部：
 - 部長・西尾恵美子<福岡小学校教諭>
 - 副部長・岸瑞代<大聖寺高校講師> 部員・山沢聡美<中海中学校教諭>

- : 研究調査部：
 - 部長・八田和幸<港中学校教諭> 副部長・水上真由美<金沢商業高校教諭>
 - 部員・西脇良樹<小丸山小学校教諭> ・北村千恵<南郷小学校教諭>
 - ・坂井雪絵<羽咋小学校教諭> ・木之下知子<小立野小学校教諭>

- : 会報部：
 - 部長・佃さえ子<松陽小学校教諭> 副部長・新谷幸一<小立野小学校教諭>
 - 部員・磯野美佳<星稜中学校講師> ・寺井純子<直小学校教諭>
 - ・中辻育代<粟生小学校教諭> ・吉田美晴<中央小学校芳齋分校教諭>

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局） 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
（1）事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部・会計部・研究部・会報部・研修部・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
（3）役員の選出と任期は、下記のように定める。
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

〔附則〕

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品Ⅱ古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品Ⅱ画仙紙・色紙・各種額縁・水墨画用品

文房四宝

文真堂

金沢市尾張町二丁目一―二八
電話(〇七六)二六四―一八三六



東京書籍

北陸支社：〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
TEL.076-222-7581 FAX.076-232-2719

ホームページ…<http://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット…<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

新しい書写 書写練習帳

全面改訂

[石川書写の会]コンクール課題付き
採用校に書き初め手本(実物大)を進呈

教科書
完全準拠

1・2年各上・下巻/3～6年各1冊
B5変型判/各26～36頁/4色刷
定価各320円(本体各305円)

- 「新しい書写」に完全準拠しています。
- 教科書と同じ執筆者の文字を使用した練習帳です。
- 「基本」「練習」「まとめ」のページで、教科書にそって段階的に技能の向上が図れる構成にしています。
- 筆使い・字形・筆順などの書き方のポイントを色刷りで示しています。
- 3～6年は、毛筆教材中の硬筆文字も収録しています。毛筆・硬筆の関連学習に効果的です。



書道名言辞典

宇野雪村・西林昭一・福本雅一 編著

A5判/788頁
本体7573円(税別)

書・篆刻・文房に関して、中国・日本の書論・随筆・詩などから名言・名句を集め、やさしく解釈・解説した読む辞典。学書・指導・鑑賞の指針となる初めての書の名言辞典。

入木筆



練習にも 作品にも 最適品

株式会社 博文堂本舗

〒639-1134 大和郡山市柳1の1
TEL 大和郡山 0743-52-3251
FAX 0743-52-3253

四墨 練習用から作品用まで

墨液

(練習用)
墨液
濃墨液



玄宗

(作品用)

普通
中濃
濃墨
超濃



巒墨運堂 〒630-8357 奈良市杉ヶ町39-1 (0742) 26-5611

作品制作用から練習用まで常に良心的

伝統と技術をほこる純墨



油煙磨墨液
天衣無縫



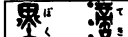
純松煙磨墨液
松潤



書芸吳竹



そのまま書ける書道用液



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨

個性ある色調

紺煙・青墨・茶墨・炭墨・各種

作品用書道液

株式会社 吳竹精昇堂

〒630-8670 奈良市南宮終町7-576 電話0742(50)2050 東京・札幌・仙台・福岡

伝統的工芸品指定 熊野筆 高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹嶋

〒731-4215
本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009 番付
東京 東京都台東区台東3-42-4
書道殿堂東京久保田号ビル



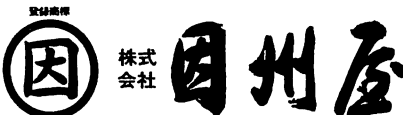
伝統的工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター
株式会社



本社 〒731-4200 広島県安芸郡熊野町1897 TEL082(854)001940
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央31-12-201 TEL045(942)4119
"アンテナショップ"
熊野筆センター 広島店
〒730-0013 広島市中区八丁堀5-29 TEL082(222)1919

・因州産紙
・書道用紙
・洋紙板紙
・包装資材



〒680-0912 鳥取市商栄町155番地
TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811
E-mail insuyuya@apionet.or.jp

高級用紙類 各種特注紙 器具製作 高級木製類 各種同梱・梱立

株式会社 サン美術工芸

833-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33
TEL 0766-21-6112 FAX 0766-23-3851
ホームページ: http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@p1.tcnnet.jp

額

株式会社



◆事業内容 書道額・和額・日本画額・洋額・額寸額・特注品・屏風・扇立・絵巻の製造販売
●本社/広島県高岡市上下町上下1813-1 ☎0423-28-3085 FAX0423-28-3251
●東京営業所/東京都台東区下谷町1-10-5 ☎0369-41-8181 FAX0369-41-8048
●富山営業所/富山県高岡市免4丁目6-14-24 ホームページアドレス http://www.dashin.co.jp



平成14年度 光村図書版教科書完全準拠

●小学校書写 児童用教材

書写の練習	1・2年 上下 3～6年 年刊	各 320円 (税込)	A4縮小判 24ページ 1～6年 4色刷り
毛筆書写の練習	3～6年 年刊	各 420円 (税込)	B4判 各32枚 3～6年 2色刷り

●小学校書写 指導用資料 (学校備品)

新発売 毛筆書写指導ビデオ	VHS全3巻 各約30分	各 9,975円 (税込)	監修・指導 金子卓義 宮澤正明
書写掛図 (硬筆)	1・2年 各1巻	各 12,600円 (税込)	縦841mm×横594mm 各巻12枚 2色刷り
書写掛図 (毛筆)	3～6年 各1巻	各 16,800円 (税込)	縦841mm×横594mm 各巻16枚 2色刷り

●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳	1年/2・3年 全2冊	各 350円 (税込)	B5判 各24ページ 2色刷り
----------	----------------	-------------	--------------------

光村教育図書株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-27-4
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 **絃 貴 堂**

〒920-0002 金沢市千木1丁目33-1 TEL (076) 253-0618
FAX (076) 253-4618

文部科学省
認定

硬筆書写・毛筆書写検定

・後援 — 全国都道府県教育委員会

・試験の種類と程度

4級…基礎的な技術及び知識

3級…一般の技術及び知識

2級…専門的技術及び知識

1級…高度な専門技術及び知識

・試験日（同日実地）

◎平成13年度第3回…14年1月27日(日)

◎平成14年度第1回…14年6月16日(日)

（毎年6月、11月、翌年1月の3回実地）

・試験地

全国主要都市、20名で試験会場設置可

・受験者必読参考書刊行（申し込みは協会へ）

硬筆：手引きと問題集（定価1000円 ㊦310円）

毛筆：手引きと問題集（定価1100円 ㊦310円）

・受講料

	1級	2級	3級	4級
硬筆	4,120円	2,060円	1,550円	1,030円
毛筆	4,640円	2,680円	1,850円	1,030円

・特典

書写・書道教育に最適。大学・短大の入試で優遇。高校の単位認定に認められた。公的資格が得られ、進学、就職に有利。

■願書請求法 — 宛名明記の返信用封筒（80円切手貼附）と切手200円を同封し、協会にご請求下さい。

㊦170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3

TEL03(3988)3581(代) FAX03(3988)3528

法人 日本書写技能検定協会

ASK 中村産業株式会社

代表取締役 中 村 真 児

㊦920-0953

金沢市涌波3丁目6-13

TEL(076)261-8569

FAX(076)224-8287

書道室にも是非一冊を
新しいタイプの
集字一覧と作例付

墨場必携シリーズ

〈価格は税別〉

日本留字普及協会
東京都文京区本郷3-4-5
〒113-0033 ☎03-3813-6925

墨場必携 唐詩選を書く 3800円
唐詩選の五言絶句・七言絶句239首収録

墨場必携 白楽天を書く 3800円
白楽天の五言・七言絶句200首と長恨歌

墨場必携 唐詩選律詩を書く 3800円
唐詩選の五言律詩と七言律詩140首収録

墨場必携 名句を書く 3800円
5・7・10・14字の名句を248句。釈文付

墨場必携 少字数を書く 3800円
1・2・3・4字の語句を179句。釈文付

精選漢字墨場必携 2200円
上記シリーズ5冊の全語句を収録。釈文付

書画芸術の明日を創る

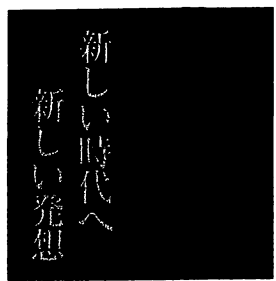
筆・紙・墨・硯

もろろん

筆 文

株式会社 贅交社

本社 京・山科区勧修寺東出町4-1 ☎075(572)8964
二条店 京・中京区河原町通二条西入 ☎075(222)0390



企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

能登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
工場 ● 〒924-0013 石川県松任市番匠町293番地
TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社



株式
会社

教育統計会

〒920-0806 金沢市神宮寺2丁目12-22
TEL(076)252-1245 (代表)
FAX(076)251-8461

教材・教具・文具

藤田教材

能美郡根上町浜町甲19-3 TEL 0761-55-4183

大好評
あなたのお名前
の手本を
サービス



ヤマガミの書道セットには お手本ね一むがついてくる!

- 名前書きの指導にぴったり
- 長年使えるパウチ加工
- 中央線も入って見やすい

有限
会社 **ヤマガミ共育社**
〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL 291-1250 FAX 292-8008

あすを築く教育のいしずえ



北陸青葉

学校教材販売

有限
会社

本田教材社

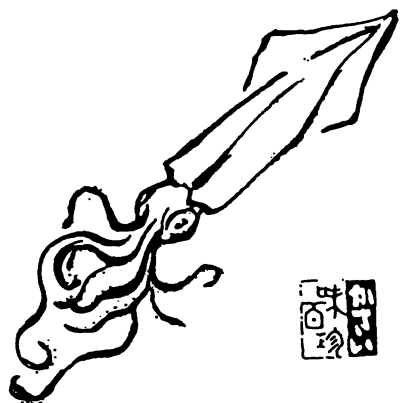
書道セット
かきかたノート

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076)241-1339
FAX (076)241-7705

デザイン・日本画・洋画材料・額縁

かわさき画材

金沢市寺町3丁目13の19 TEL (076)243-8244



珍味のかわさき

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地

TEL (076) 247-2231

FAX (076) 247-3612

片町店 / 920-0981 金沢市片町1丁目7番17号

TEL (076) 262-9333

FAX (076) 262-9333

(株)津田精工

松任市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 ダイシン

金沢市米泉8丁目105

TEL 243-1555

FAX 243-1783

PHOTO STUDIO

uno

カラープリント45分仕上!
うのフォトスタジオ

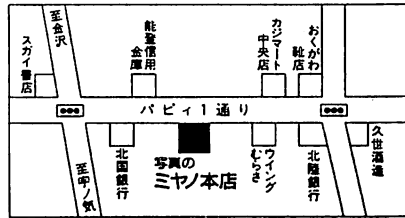
金沢市富樫2-1-5
(泉ヶ丘高校前) ☎247-1366

スタジオ写真

赤ちゃん・ご家族・成人式・ご入学・七五三・証明写真・商品撮影・
婚礼写真・葬儀用写真・デジタル加工・デジタルプリント・etc

写真の **ミヤノ**

- 本 店/津幡町津幡ハ88-1 ☎289-4181
FAX 289-2143
- 森 本店/マイモールモリモト ☎257-3780
- 新 神田店/金沢市入江1丁目28 ☎291-8022



OA機器・事務器・文具・紙製品

百 々 商 会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地

TEL・FAX 257-2065

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

松任市新田町10-3

TEL 076-274-6370

近畿日本ツーリストは総合旅行会社として初めて
環境管理システム国際規格 ISO 14001 の認証を取得しました。



人が好き。地球が好き。旅がスキ。

国土交通大臣登録旅行業第20号 (社)日本旅行業協会会員

 **近畿日本ツーリスト 金沢支店**



〒920-0981 金沢市片町1-1-34 (第一生命ビル1階)
TEL (076) 232-0561 FAX (076) 232-3228
E-mail : kanazawa@or.knt.co.jp

営業時間/月~土曜10:00~18:00
定休日/日曜・祝日・年末年始

名鉄観光 サービス株式会社

金沢支店

〒920-0918
金沢市尾山町3番20号 (日本生命金沢ビル)

TEL(076) 231-2126
FAX(076) 223-1289

金沢名鉄丸越案内所

〒920-0855
金沢市武蔵町15番1号 (金沢名鉄丸越百貨店3F)

TEL(076) 260-2457
FAX(076) 260-2650

● 廣 ● 告 ● 看 ● 板 ● 一 ● 般 ●

有限会社 **アサダ・デザイン看板**

代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16-31 TEL248-2367(代)



日本の旅

世界の旅



豊かな感動のステージへ

東急観光

金沢支店

TEL076 (222) 0109

TOYO PHOTO STUDIO

東洋写真館

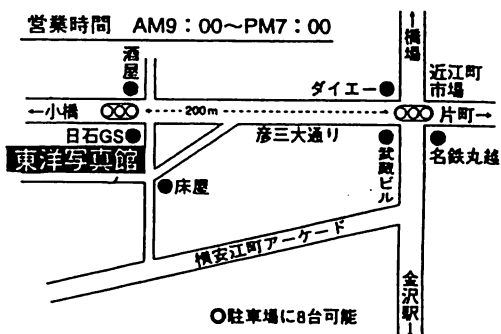
スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影
スクールアルバム コマーシャルフォト

金沢市彦三町二丁目五-五 〒920-0901

☎ (076) 231-6456

FAX (076) 221-1097

営業時間 AM9:00~PM7:00



写真・ビデオ制作 光画社

☎920-0902 金沢市尾張町1丁目7-8

☎金沢 076-264-3288(代) FAX 076-262-4537

加賀料理

割烹 和田

金沢市片町1丁目10-5 TEL (076) 221-2848

販 売. 整 備. 一 般

株式会社 喜多自動車

〒921-8802 石川県石川郡野々市町押野4丁目204番地

TEL(076) 246-3351(代)

FAX(076) 246-3353

君がいれば、
そこがキャンパス。

感性とテクノロジーが、
快適な学生服を創造します。

北国被服株式会社

〒921-8031 金沢市野町4丁目7-5
TEL(076)241-3457 FAX(076)244-3235

PRINTING RENAISSANCE

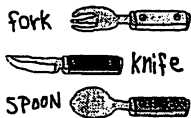
伝えたいことを、伝えたい人に
印刷とマルチメディアの栄光プリントです。



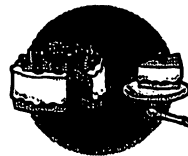
株式会社 栄光プリント

〒920-0806 金沢市神宮寺3-4-17
TEL (076) 251-3076 FAX 252-2917
<http://www.eiko-p.co.jp>

コーヒーハウス



路々
路々



松任バイパス店
TEL 246-0100

野々市店
TEL 248-4011

各種ご会合にはVIPルームをご利用下さい！
(12名様までOK！部屋代無料・要予約)

■営業時間 am8:00～am0:00／年中無休

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 布村教材社

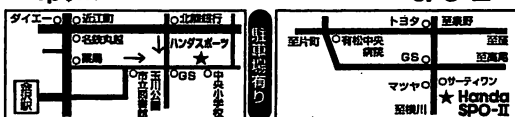
〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701

競技者をトータルサポートするプロショップ
ベースボール・トラック&フィールド・サッカー・バスケットボール専門店

Handa Sports

☆営業時間 午前10時～午後8時
☆定休日 水曜(水曜祝日営業)

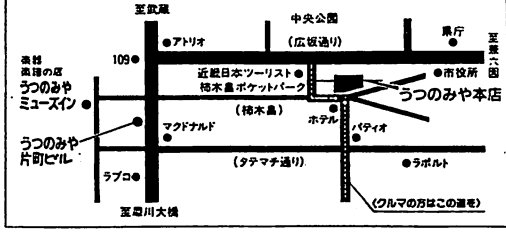
Handa SPO-II



TEL(076)221-6665
〒920-0864 金沢市高岡町22-5

TEL(076)241-7760
〒921-8164 金沢市久安2丁目330番

“せせらぎの街 柿木島”
本 うつのみや **雑貨** **Oops!**
ウツス



〒920-0962 金沢市広坂1丁目1番30号 TEL.076(234)8111(代)

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書 の 教育図書・教材
 - 毎日の学習教材「はつらつ」
- 北陸暁図書販売株式会社**

金沢市石引4丁目4-4
 ☎(076)232-2425(代)

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5
 TEL 075 (812) 3318

㈸ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>
 E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市諸江町中丁179-3
 TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
 営業時間 AM 9:00~PM 11:00

日本画・洋画

美術部

掛軸
額装
屏風

美術部

壁襖
貼製
工作
事部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

諸紙・印刷・文房具・事務用品

鷹田弘文堂

〒920-0831 金沢市東山3丁目10番43号
 TEL・FAX 252-9341

Life and Technology
INAMI教材
 PHONE(076)222-0565 FAX(076)224-0581



学校教材なんでも

金沢・北安江
 TEL 231-6773
 FAX 231-6940